

1月例会は『型破りな教室』

1月29日(木)、メキシコの小学校で起きた探求する喜びを知った児童たちの奇跡

◇新年のあいさつ

2026年 あけまして おめでとうございます

6日の鳥取・島根地震にはビックリしましたね。2年前の能登半島の地震を思い出しました。みなさん被害はありませんでしたか?今年加古川シネマクラブは設立2002年から24年を迎えます。「東播磨の地域に良い映画を」と2か月に1回の例会を続けてきました。たくさんの出会いと別れがありました、続けることが大切だと思っています。12/13運営委員会年会を開きました。加古川6名、明石シネマクラブから2名が参加、映画話で盛り上がりました。昨年は会員のみなさんから引き続き切手やクリップペンシルをいただきました。ありがとうございます。

今年も「良質な映画上映」をしていくため、一緒に会員を増やし、ともに笑い・涙し、映画を楽しみましょう。

例会のお知らせ

■名称／第139回例会『型破りな教室』

■日時／2026年1月29日(木)

①PM1:50~、②PM4:10~、③PM6:30~

■場所／加古川総合文化センター大会議室

(JR東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きしていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／『型破りな教室』

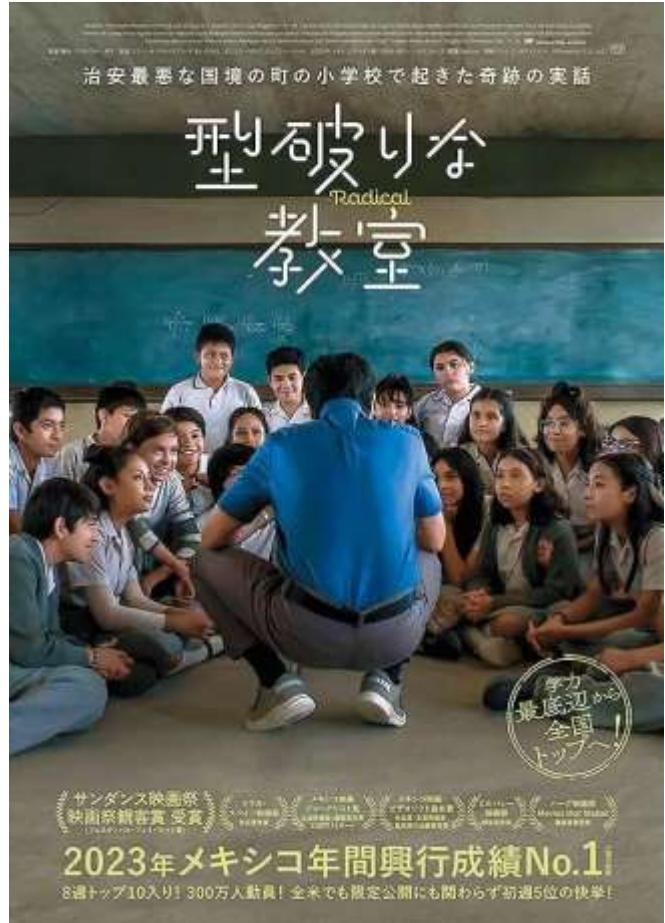
■監督・脚本／クリストファー・ザラ

■出演／エウヘニオ・デルベス、ダニエル・ハダッド、ジェニファー・トレホ、ジルベルト・バラサ、ミア・ソリス、ダニーロ・グアルディオラ

■データ／2023年、メキシコ、125分

■ジャンル／ヒューマンドラマ

■イントロダクション・ストーリー／薬と殺人が日常と化した国境近くの小学校。子供たちは常に犯罪と隣り合わせの環境で育ち、教育設備は不足し、意



欲のない教員ばかりで、学力は国内最底辺。しかし、新任教師のフアレスが赴任し、そのユニークで型破りな授業で、子供たちは探求する喜びを知り、クラス全体の成績は飛躍的に上昇。そのうち10人は全国上位0.1%のトップクラスに食い込んだ!

アメリカとの国境近くにあるマタモロスの小学校で2011年に起きた実話を描いた本作は、本国で300万人を動員し、2023年No.1の大ヒットを記録。更にアメリカでも限定公開かつスペイン語作品にも関わらず初週5位の快挙をとげ、絶賛の嵐は北米まで広がった。『コーダ あいのうた』に続いての教師役ながら、新たな魅力を発揮したエウヘニオ・デルベスにも注目。

未来を望むことさえしなかった子供たちが、可能性や夢に出会い、瞳がきらきら輝きだす光景に、心打たれる奇跡の感動作が誕生した。

私の映画 KAN 別編 劇「拝啓、おとうちゃんへ 2025」

稻美町遺族会主催の劇「拝啓、おとうちゃんへ 2025」は、実在の出征した父へ、その遺族である子どもたちからの約 80 年をかけてたどり着いた心の手紙を届ける物語です。

稻美町からもたくさんの人たちが出征しました。残された子どもたちは、お父ちゃんにだっこをしてもらいたい、おんぶや肩車、一緒に遊びたい・・・帰ってくると思っていたのに、帰ってきたのは石ころの入った箱だけ。そんなドラマのような話は、遠い話ではなく現に経験した人の話を聞いて、涙、涙でした。子どもたちの手紙に呼応するように、出征した父たちも、写真を肌身離さず持っており、きっと帰る、きっと帰ると心の内を吐露していました。「生きて帰ってきて」と言えない世の中、それが戦争なんだと思い知らされました。

私も、広島や長崎の平和公園へ行ったことがあります。語り部の話を聞いたこともあります。千羽鶴を折って、みんなで協力して奉納したこともあります。しかし、自分が住んでいる稻美町の遺族に直接話を聞くと、平和の大切さが身に染みわたる感じがします。

私たちは、生まれた時から平和な時代で、それが当然で、何とも思っていません。でも、世界をみる限り、平和は守っていかなければならないと強く思いました。若いパパ、ママや学生たちも鑑賞してくれていたので、思いは継承してくれると嬉しくなりました。

”泣き声 笑い声 話す声 過ごしたかった時間をお帰り ただいま 呼びたかったよ
トト どうさん おとうちゃん 呼ばれたかったよ”
(有)

前回の例会報告

11月12日(水)の11月例会は、会員以外の人が鑑賞することができる特別例会として開催しました。

現代の時代劇撮影所にタイムスリップした幕末の侍が時代劇の斬られ役として奮闘する姿を描いた痛快時代劇コメディ『侍タイムスリッパー』を鑑賞しました。第67回ブルーリボン賞作品賞、第48回の作品は、日本アカデミー賞最優秀作品賞を受賞するなど、多方面から評価を受けた作品でもありました。

アンケート結果は128枚回収のうち「とても良かった」76、「良かった」40、「ふつう」5、「よくなかった」1で、作品に対する意見は50もあり、すべて肯定的で、何回も見た人が多かったのが印象的でした。

参加者数は、意外と伸びず、参加会員81名、明石シネマクラブから12名参加、一般鑑賞者124名でした。

明石シネマクラブ例会情報

■名称／第 93 回例会『人生は、美しい』

(2022 年、韓国、123 分)

■監督／チエ・グクヒ

■出演／リュ・スンリヨン、ヨム・ジョンア、パク・セワン、オン・ソンウ、シム・ダルギ

■ジャンル／ミュージカル、恋愛

■ストーリー／亭主関白の夫と思春期の息子と娘。そんな家族に時にうんざりしながらも、健気に尽くしてきた平凡な専業主婦のセヨン。



だがある日、突然の余命宣告。激しく動搖したのも束の間、何かが吹っ切れたセヨンは、最後の誕生日プレゼントに、初恋相手との再会を熱望。彼と一緒に探してほしいと夫に頼み、夫婦の奇妙な最後の旅が始まるのだった—。

■日時／2月 20 日(金)①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所／アスピア明石 9階子午線ホール (JR明石駅東徒歩 5 分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662 (金沢まで)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300 字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 079-425-4499 ※

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kakogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

※ファクシミリの番号が変わっています。

会員数 134 人(11月 22 日現在)